



東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド



企業メセナ協議会

## GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド) 第4回助成活動を決定

### 震災復興に向けた芸術・文化活動 23 件に 1226 万円の助成を決定

公益社団法人企業メセナ協議会(東京都千代田区丸の内 1-8-2、理事長:福地茂雄[アサヒグループホールディングス株式会社相談役])は、このたび GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)の第4回助成選考会を行い、新たに計 23 活動(一覧は次頁に掲載)を採択、総額 12,263,600 円\*を助成することを決定しました。これにより、GBFund 開設以来の寄付総額は 30,190,245 円(8月11日現在)、助成実績は計 61 活動/総額 30,179,489 円となりました。

\* 第1~3回までの助成活動に対する寄付先指定による寄付を含めた今回の支出助成金総額は 14,035,489 円

### 夏祭り・お盆を契機とする郷土芸能の復興事業多数、古文書等歴史資料救出・修復活動も

今回は過去最多の 150 件を超す申請があり、そのうちの 4 割が被災地からの申請でした。また、被災地で開催する活動が 7 割を超す一方、避難者が暮らす地域での活動も複数ありました。震災後初めて迎えるお盆や人々が集う夏祭りの時期に向けて、被災した郷土芸能や祭りの復活をめざす事業が多く、地域の絆を取り戻すためにもどうか活動を再開したいという声が多数聞かれました。被災した古文書や貴重な歴史文書を救出し、修復する活動等、緊急を要する活動もありました。

### スポットの活動から継続的な活動へ、「届ける活動」から「被災地からの発信」へ

これまでの全4回の申請活動・採択活動を振り返ると、1日~数日単位の活動が多かった初期と比較して、最近では、より長期にわたって継続的に取り組む活動が増えてきています。また、被災地の外から支援に入る活動が多かった初期段階と比べると、被災地域自ら芸術・文化を通じた復興、あるいは地域文化の復興に取り組む活動が増えていきます。震災後につくった作品を東京で上演する試みもあります。

以上

#### ■GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)

GBFund(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、2011年3月23日に企業メセナ協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援ファンド。趣旨に賛同くださった寄付者とともに、今後5年間、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を支援する。

#### ■公益社団法人企業メセナ協議会

企業・団体による民間のメセナ(芸術文化支援)活動の活性化を目的に1990年2月に発足した公益法人。企業メセナへの意欲を高め、メセナや芸術文化に対する社会の理解を深めるため、1.啓発・普及、2.情報集配、3.調査・研究、4.顕彰、5.国際交流、6.助成認定等を行う。日本で唯一のメセナ専門の中間支援組織。正会員133社、準会員39団体(2011年8月現在)。

【本件に関するお問い合わせ先】 公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当:作田

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-2 第一鉄鋼ビル 1階/URL:<http://www.mecenat.or.jp>

TEL.03-3213-3397/FAX.03-3215-6222/E-mail.[tsakuta@mecenat.or.jp](mailto:tsakuta@mecenat.or.jp) ※8/12(金)~17(木)夏期休業

第4回助成活動一覧（※活動内容の詳細については別添書類を参照）	
活動名(実施場所)	実施者・団体名(所在地)
永浜鹿踊保存会事業（岩手県）	永浜鹿踊り保存会(岩手県)
門中組虎舞復興事業（岩手県）	門中組振興会(岩手県)
「四倉ねぶた」の復興支援（福島県）	特定非営利活動法人よつくらぶ(福島県)
負けねえぞ、黒森神楽！復活公演 in 宮古（岩手県）	黒森神楽保存会(岩手県)
宮城県楽器 BANK（宮城県）	宮城県吹奏楽連盟(宮城県)
石巻ワンダー横丁～アートとハートのコミュニティー～（宮城県）	石巻ワンダー横丁(宮城県)
石巻震災土蔵メモリアル基金（宮城県）	石巻若宮丸漂流民の会(宮城県)
東日本大震災を語り継ぐために、被災体験を語り、聴き、胸に刻む つどい(宮城県)	みやぎ民話の会(宮城県)
社人会復興事業（岩手県）	社人会(岩手県)
小鍬神社例大祭（岩手県）	城山虎舞(岩手県)
民俗芸能保存会調査（岩手県）	たびれっじ推進協議会(岩手県)
被災地でこそエル・システム（岩手県）	エル・システム無償の音楽教育推進協会福 島(京都府)
多賀城「万葉復興祭」—万葉の灯(鎮魂祭)・アラハバキの灯(希望 祭)(宮城県)	社団法人塩釜青年会議所(宮城県)
うごく七夕・川原七夕祭組復興プロジェクト（岩手県）	川原七夕祭組(岩手県)
被災文化財(文書等)の復旧支援（岩手県）	東京文書救援隊(東京都)
大槌・向川原虎舞復興プロジェクト（岩手県）	向川原虎舞風虎会(岩手県)
「Referendum—国民投票プロジェクト」（福島県/東京都）	Port B(埼玉県)
いわき総合高等学校演劇部「Final Fantasy for XI.mar.MMXI」東京 公演(東京都)	五反田団・アトリエヘリコプター(東京都)
南三陸町・行山流水戸辺鹿子躍復興プロジェクト（宮城県）	行山流水戸辺鹿子躍保存会(宮城県)
三陸海の盆（岩手県）	「三陸海の盆」実行委員会(岩手県)
荒井良二とふらっぐしっぷ（山形県）	学校法人東北芸術工科大学(山形県)
東日本大震災復興支援上映プロジェクト「ともにある Cinema With Us」(山形県)	特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタ リー映画祭(山形県)
被災地の再生に向けた民間歴史資料の救出・修復プロジェクト（宮 城県）	歴史資料ネットワーク(兵庫県)

**公益社団法人企業メセナ協議会 第4回 GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)選考  
会開催概要**

■開催日程:2011年8月6日(木)

■選考委員:片山正夫理事(セゾン文化財団常務理事)、加藤種男理事(アサヒビール芸術文化財団事務  
長)、吉本光宏理事(ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)

■採択件数:23件、助成総額\*:12,263,600円 \*助成総額には寄付先指定による助成を含む

東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド

**GBFund**

企業メセナ協議会

第4回 GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧

実施者・団体名(所在地)／ 活動名／実施日／場所	活動内容
永浜鹿踊保存会事業 永浜鹿踊保存会(岩手県) 2011年8月～ 岩手県大船渡市	先祖から長く受け継がれてきた大船渡市指定無形民俗文化財の「永浜鹿踊(ししおどり)」は、3月11日の大津波で装束および道具一式を流失し、伝承活動が困難になっている。復活には多額の資金と時間が必要だが、五年祭や各種郷土祭への参加、新盆供養の「位牌褒め」を目標に、活動再開をめざす。
門中組虎舞復興事業 門中組振興会(岩手県) 2011年7月24日～ 岩手県大船渡市末崎町、門之浜・中井地域	鎌倉時代から五穀豊穰・悪魔払い・大漁を願って熊野神社に奉納されてきた「虎舞」は、地域住民総出で準備し1か月におよぶ「大祭年」や元旦の地域全戸悪魔払い等、地域に欠かせない郷土芸能だった。大津波で装束や伝承館が被災したが、伝統を絶やさぬよう一日も早く虎舞を復活し、地域の元気を取り戻す。
「四倉ねぶた」の復興支援 特定非営利活動法人よつらぶ(福島県) 2011年8月1日～2012年3月11日 福島県いわき市四倉町	1984年に誕生し、いわき4大祭りの一つとして県内外から観光客が多数訪れていた「四倉ねぶた」は、津波で保管庫が被災しねぶたが流失。原発事故の影響もあり、28回目の祭りは中止となった。津波で流失し閑散とした地域に元気と活気と光を取り戻すべく、来年の夏祭り復活に向けて四倉ねぶたを復興する。
負けねえぞ、黒森神楽！復活公演 in 宮古 黒森神楽保存会(岩手県) 2011年9月～ 岩手県宮古市、岩手県三陸沿岸域	岩手県宮古市の黒森神社に伝わる山伏神楽で、「巡業」という形体を江戸時代初期より伝承する、国の重要無形民俗文化財「黒森神楽」。震災で多くの祭礼が中止される中で神楽を伝承・保存していくためにも、津波で流失した装束を整え、地域の神社祭礼への奉仕活動を再開し、伝承活動の継続をめざす。
宮城県楽器BANK 宮城県吹奏楽連盟(宮城県) 2011年4月3日～2012年3月31日 東北高等学校音楽部(楽器送付先)	太平洋沿岸にある宮城県吹奏楽連盟加盟の小中学校が津波で大きな被害を受けた。直後から楽器寄贈の申し出が多数寄せられたため「宮城県楽器 BANK」を立ち上げ、HP上で全国に楽器提供を呼びかけたところ、500本超の楽器が寄贈された(現在楽器受付は終了)。寄贈のため修理・調整作業を行う。
石巻ワンダー横丁～アートとハートのコミュニティー～ 石巻ワンダー横丁(宮城県) 2011年8月～12月まで(以降も継続予定) 宮城県石巻市「石巻ワンダー横丁」(旧ボーイズギャラリー)	甚大な被害を受けた石巻地域で、未来や夢に向かって力を合わせて好きなことにチャレンジできるコミュニティー「石巻ワンダー横丁」を立ち上げた。地元住民と全国のアーティスト、クリエイター、音楽家らとともに運営し、商店街のシャッター・看板のペイント、仮設住宅の手作り表札作成、音楽会などを作成。心のケアだけでなく、にぎわいや職の創出もめざす。
石巻震災土蔵メモリアル基金 石巻若宮丸漂流民の会(宮城県) 2011年8月～ 宮城県石巻市門脇町ほか	大津波で壊滅的な被害を受けた石巻市沿岸部で、奇跡的に流出・倒壊を免れた土蔵が1棟残された。明治30年に建築されたこの蔵は、港町石巻の歴史を語る上で欠かせないものであり、明治時代に建てられ唯一残った建築物として、また震災の記憶を未来に伝えるメモリアル、復興のシンボルとして保存していく。
東日本大震災を語り継ぐために、被災体験を語り、聴き、胸に刻むつどい みやぎ民話の会(宮城県) 2011年8月22～23日 宮城県南三陸町「ホテル海洋」	伝承の語りに関心を寄せる人々が地域の語り手から民話を聴く「みやぎ民話の学校」が、今年は、被災した語り手らが「津波を語る」学校を開く。歴史の証言として震災体験を語り残したいと願う語り手にその場を提供し、語りを聞いて体験を共有したいと願う地域の方々にもその機会を提供する。未来の民話がここから生まれていく。

<別紙>

実施者・団体名(所在地)／活動名／実施日／場所	活動内容
社人会復興事業 社人会(岩手県) 2011年9月25日 岩手県上閉伊郡大槌町	津波と火災で壊滅的被害を受けた岩手県大槌町の小鍬(こづち)神社は、17世紀製の2基を含む4基の神輿が奇跡的に残った。毎秋地域をあげて行ってきた小鍬神社の例大祭で今年も神輿を担いで町民を励ますために、小鍬神社の神輿を担ぐ人たちの会(社人会)100名が立ち上がり、神輿を担ぐ際に着用する必要のある官服(かんぶく)の支度から始める。
小鍬神社例大祭 城山虎舞(岩手県) 2011年9月24～25日 岩手県上閉伊郡大槌町 小鍬神社境内	1996年に発足した岩手県大槌町の郷土芸能団体「城山虎舞(しろやまとらまい)」は、大津波の被害で、活動の基盤となる会館、虎頭、太鼓、山車、衣装、小道具等が甚大かつ深刻な被害を受けた。子どもや若者が将来的に虎舞を伝承していくことが大槌町復興再生の原動力となることから、まずは小鍬神社の例大祭をめざし、虎舞を披露できるよう用具を揃えていく。
民俗芸能保存会調査 たびれっじ推進協議会(岩手県) 2011年8月～9月(予定) 岩手県一関市を起点に近隣の東北沿岸被災地	近隣の東北沿岸被災地(一関・気仙沼・大船渡・陸前高田・釜石等)の民俗芸能について、被災状況や復旧状況など不明点が多い保存会の実態調査を行う。各保存会を個別に訪問したヒアリング調査の結果はHP等で公開し、今後の支援策の検討資料とする。
被災地でこそエル・システム エル・システム無償の音楽教育推進協会福島(京都府) 2011年8月～2012年3月 福島県郡山市、福島市(予定)、岩手県大船渡市	南米ベネズエラで始まった楽器貸与の無償音楽教育による青少年育成運動「エル・システム」を、被災地で実践する。一流の音楽家の協力を得て、無料で音楽を学べる機会を導入することで、津波や地震、放射能問題で喪失感のある子どもやその親が、孤立感に悩まないようサポートしていく。
多賀城「万葉復興祭」一万葉の灯(鎮魂祭)・アラハバキの灯(希望祭) 社団法人塩釜青年会議所(宮城県) 2011年10月9日 宮城県多賀城政庁跡(多賀城市市川城前)、多賀城碑	炊き出しや給水、物資提供等、地元住民とともに復興に向けて努力する中、復興財源確保のため行政主導の「多賀城万葉まつり」が中止となり市民の楽しみがなくなった。なんとか震災の犠牲になった方々の鎮魂と復興へ向けた市民の元気回復を願う機会を設けたいと「万葉復興祭」を行う。行燈を灯し、花火をあげ、伝統文化に触れる機会を作り、地域再生の一助とする。
うごく七夕・川原七夕祭組復興プロジェクト 川原七夕祭組(岩手県) 2011/2012年8月7日、2012年正月 岩手県陸前高田市高寿園、高田高校仮設住宅	大津波で中心街がすべて流出した陸前高田市では、毎年8/7に七夕祭りを開催。「うごく七夕」「けんか七夕」「海上七夕」など、住民総出で準備する華麗な七夕飾りをつけた数十台の山車が勇壮な七夕囃子に合わせて運行。獅子舞とともに地域に欠かせない郷土芸能だったが、今回甚大な被害を受けた。祭りで見られた地域の繋がりを維持し、地域を復興再生するためにも七夕や獅子舞の復興に力を入れていく。
被災文化財(文書等)の復旧支援 東京文書救援隊(東京都) 2011年8月～9月 宮城県石巻市 石巻文化センター	震災で損傷・流出した歴史遺産を含む数多くの貴重な文書・記録・書籍・写真等の復旧・復興支援を行う。熟練修復専門家が不要で、簡便・迅速・効率的な文書復旧システムを被災地の概要施設に導入、作業スタッフに対する短期研修を実施し、被災地自らが今後も文書普及に取り組める道筋をつける。
大槌・向川原虎舞復興プロジェクト 向川原虎舞風虎会(岩手県) 2011年9月24日 岩手県上閉伊郡大槌町 小鍬神社境内	毎年9月第3土日に行われる小鍬神社の例大祭は神輿、鹿踊り、大神楽、虎舞、七福神、手踊り、2キロ千名の大行列と神楽の水ごり等で盛り上がる一大行事だった。1947年発足の「向川原虎舞風虎会」は、青年が伝承を担い地域の結束力と誇りを高めてきたが、大津波で道具等がほとんど流出、町内の虎舞4団体がつくる連合協議会で道具を貸し借りしている状態である。地域復興再生の力となるよう、虎舞の復興に注力する。

<別紙>

実施者・団体名(所在地)／活動名／実施日／場所	活動内容
「Referendum—国民投票プロジェクト」 Port B(埼玉県) 2011年10月11日～11月13日 福島県内各地および東京都内各地	大震災および原発事故がもたらした現実に、今芸術が果たすべき一つの形を示す演劇プロジェクト。福島と東京の子どもたちに「夢」をインタビューし、移動型映像インスタレーションとして、改造キャラバンカーで両地を巡回、他方から提案された交流のあり方や自分の未来、日本の過去・現在・未来について対話を重ねていく。原子力をめぐる議論からも現実を掴み直し、未来へ向かうためのきっかけとする。
いわき総合高等学校演劇部「Final Fantasy for XI.mar.MMXI」東京公演 五反田団・アトリエヘリコプター(東京都) 2011年12月21日～23日 東京都内(アトリエヘリコプター、筑波大付属駒場中・高等学校)	いわき総合高等学校演劇部が、震災後に創作した作品を、東京で上演するプロジェクト。震災・原発災害に対する怒りや痛みへの祈り、どうにもならない今を、どうにもならないままぶつけることで創作された「Final Fantasy for XI.mar.MMXI」を、福島以外の場所で上演し、たくさんの人に見てもらいたいと願ういわき総合高等学校演劇部の希望を実現し、復興の小さな一歩とする。
南三陸町・行山流水戸辺鹿子躍復興プロジェクト 行山流水戸辺鹿子躍保存会(宮城県) 2011年8月14日～毎年8月14日 宮城県南三陸町 慈眼寺	宮城県北から岩手県南に伝わる鹿踊で最も多い「行山(ぎょうざん)流」発祥の地、宮城県南三陸町戸倉の水戸辺(みとべ)地区は、享保9年(1724年)の鹿踊り供養の石碑発見を契機に1993年、300年振りに復活した。しかし津波ですべての道具が流された。瓦礫の中から奇跡的に小学生用の太鼓や鹿頭を発見し応急修繕したが、不足した道具は借りながら踊り始めた。今まで伝えてきた日常を取り戻すため道具を準備しながら、南三陸町復興の旗振り役として踊り続けていく。
三陸海の盆 「三陸海の盆」実行委員会(岩手県) 2011年8月7日～16日 岩手県大槌町 まごころ広場うすざわ、大船渡市末咲町	被災地である三陸沿岸部の元気回復復興支援事業。犠牲者を供養し、被災地と支援血が想いを共有するために、各地のお盆の風習を尊重したうえで毎年のお盆を「三陸海の盆」と呼称し、法要、各地の郷土芸能、精霊流し等を行う。各地の郷土芸能の復活によって、歴史を復活し郷土を復活することも目的とする。
荒井良二とふらっぐしっぷ 学校法人東北芸術工科大学(山形県) 2011年6月～2011年10月 ビルド・フルーガス/塩竈市ギャラリー、渡波小学校/石巻市、多賀城市市民活動サポートセンター、荒浜海岸/仙台市、せんだい演劇工房 10-BOX/仙台市、やまがた芸術学舎/山形市	山形出身のイラストレーター・絵本作家 新井良二氏が、学生たちとともに被災した宮城県沿岸部 5 地域を訪問し、社会福祉協議会や NGO、NPO、地元商店街、教育委員会等と連携して行うディスカッションとワークショップ・ツアー。被災地で日々懸命に生きる人々との対話(声・言葉)をもとに即興的に描かれてく絵をフラッグ(旗)に仕立て、キャラバンが巡航するルートに掲げていく。
東日本大震災復興支援上映プロジェクト「ともにある Cinema With Us」 特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭(山形県) 2011年10月～2012年3月 山形市内の映画館・公共施設、被災地の公共施設等	山形ドキュメンタリー映画祭は、震災直後から山形県内の避難所や宮城・福島の被災地、避難所を訪れ、NGO活動家や地元被災者と協力し、心のケアとして無料上映活動を続けてきた。その経緯から今回の映画祭 2011 でも震災や復興をテーマとした上映やシンポジウムの必要性を感じ、企画を立ち上げた。国際映画祭という場を活用した世界への情報発信や、上演作品をパッケージ化した被災地での巡回上演、ワークショップを開催す
被災地の再生に向けた民間歴史資料の救出・修復プロジェクト 歴史資料ネットワーク(兵庫県) 2011年9月1日～2012年3月31日 NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク事務局(仙台市)	震災によって、アルバム、日記帳、古文書、民具、自治会文書等地域の文化、暮らしを伝える歴史資料が被災した。しかし、国や県が管理する指定文化財と異なり、民間の歴史資料の救出・修復は有志のボランティアが支えているのが現状である。歴史資料ネットワークは全国の歴史学会や歴史研究者によるボランティア組織であり、阪神大震災当時から活動を重ねている。長年の知見により今回も被災した民間歴史資料の救出活動を行う。